

平成28年5月24日（火）

第5回定例教育委員会会議録

我孫子市教育委員会

1. 招集日時 平成28年5月24日(火) 午後2時00分
2. 招集場所 教育委員会 大会議室
3. 出席委員 教育長 倉部 俊治 委 員 北嶋扶美子
 委 員 豊島 秀範 委 員 長谷川浩子
 委 員 足立 俊弘
4. 欠席委員 な し
5. 出席事務局職員

教育総務部長	小島茂明
生涯学習部長	小林信治
教育総務部次長兼総務課長	増田謙二
生涯学習部次長兼生涯学習センター長兼生涯学習課長	吉成正明
学校教育課長	吉川廣一
文化・スポーツ課長兼白樺文学館長兼杉村楚人冠記念館長	鈴木 肇
指導課長 大島慎一 鳥の博物館長	斉藤安行
図書館長 今井政良 教育研究所長	水戸勝英
生涯学習課主幹兼公民館長 少年センター長	羽場秀樹
丸山正晃 文化・スポーツ課主幹	小林由紀夫
図書館長補佐 穂村喜代子 教育総務課長補佐	森田康宏
6. 欠席事務局職員 な し

午後2時00分開会

○倉部教育長 ただいまから平成28年第5回定例教育委員会を開会いたします。

これより会議を始めますが、教育委員並びに事務局職員に申し上げます。我孫子市教育委員会会議規則第18条の規定により、会議で発言する場合は挙手をし、私が指名してから発言をお願いします。また、会議を円滑に進めるため、発言は一問一答をお願いします。

会議録署名委員指名

○倉部教育長 日程第1、我孫子市教育委員会会議規則第31条の規定により、会議録署名委員を指名いたします。豊島委員をお願いいたします。

議案第1号

○倉部教育長 日程第2、議案の審査を行います。

議案第1号、我孫子市いじめ防止対策委員会委員の委嘱について、事務局からの説明をお願いします。

○羽場少年センター長 1ページをお願いいたします。我孫子市いじめ防止対策委員会委員の委嘱について、提案理由ですが、我孫子市いじめ防止対策委員会の一部委員が任期途中の人事異動等により欠員となることに伴い、我孫子市いじめ防止対策委員会設置要綱第3条第1項の規定に基づき、後任の委員を委嘱するため、提案するものであります。

2ページになります。新しい候補者ですけれども、そこにいらっしゃる方、6名になります。

3ページでございますが、委員、全ての者になっております。なお、任期につきましては、平成29年3月31日までとなっております。よろしくお願

いたします。

○倉部教育長 以上で説明が終わりました。

議案第1号について、質疑があればこれを許します。いかがでしょうか。
——よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 質疑がないものと認めます。質疑を打ち切ります。

○倉部教育長 これより採決いたします。

議案第1号、我孫子市いじめ防止対策委員会委員の委嘱について、原案に賛成の委員は挙手を願います。

(賛成者挙手)

○倉部教育長 挙手全員と認めます。よって議案第1号は可決されました。

議案第2号

○倉部教育長 次に議案第2号、我孫子市小中一貫教育推進委員会委員の委嘱について、事務局から説明をお願いします。

○大島小中一貫教育推進室長 議案第2号、我孫子市小中一貫教育推進委員会委員の委嘱についてお願いいたします。提案理由は、我孫子市小中一貫教育推進委員会委員の一部委員が任期途中の人事異動等により欠員となることに伴い、我孫子市小中一貫教育推進委員会設置要綱第4条第1項の規定に基づき、後任の委員を委嘱するため、提案するものになります。

5ページに新しく委嘱する委員、いずれも学校関係者になります。

6ページが新しい方を含めた推進委員の名簿となります。任期は平成28年9月30日までとなります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○倉部教育長 以上で説明が終わりました。議案第2号について質疑があれば

これを許します。——よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 質疑がないものと認めます。質疑を打ち切ります。

○倉部教育長 これより採決いたします。

議案第2号、我孫子市小中一貫教育推進委員会委員の委嘱について、原案に賛成の委員は挙手を願います。

(賛成者挙手)

○倉部教育長 挙手全員と認めます。よって議案第2号は可決されました。

議案第3号

○倉部教育長 次に議案第3号、我孫子市生涯学習審議会委員の委嘱について、事務局から説明をお願いします。

○吉成生涯学習課長 それでは、7ページの議案第3号、我孫子市生涯学習審議会委員の委嘱について、御説明させていただきます。

提案理由は、この4月1日から施行された我孫子市生涯学習審議会条例第3条第1項の規定に基づき、新たに委員を委嘱するため提案するものです。

次に最終の8ページをごらんください。最初に委嘱期間についてですが、これは来る7月1日に第1回目の会議を予定していること、条例で任期が3年と規定されていることから、ことしの7月1日から平成31年6月30日までの3年としております。

次に委嘱人数についてですが、審議会の委員は条例では「15人以内」ということになっておりまして、そのうち公募委員については2人募集して3人の応募があったのですが、選考委員会で慎重に審査した結果、選考された委員が1人であったことから、今回は全体で14人という人数となりました。

次に、14人の委員の氏名や所属等についてはごらんの表のとおりとなりまして、条例で規定されている選出区分ごとの内訳は、学校教育の関係者が1人、生涯学習の関係者が10人、学識経験を有する者が2人、公募の市民が1人となっています。なお、公募委員以外の委員の選出に当たっては、校長会を初め社会教育や家庭教育、青少年、文化・芸術、スポーツ、国際交流などさまざまな分野で活動されている団体ですとか、市内の大学などに推薦していただくとともに、従来のあびこ楽校協議会と社会教育委員のバランスにも配慮いたしました。

また、委員の委嘱に当たっては、条例で市長の意見を聞いて教育委員会が委嘱するということになっておりますので、先日、市長にも説明し異議ない旨の確認をしております。

説明は以上です。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○倉部教育長 以上で説明が終わりました。議案第3号について、質疑があればこれを許します。——よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 質疑がないものと認めます。質疑を打ち切ります。

○倉部教育長 これより採決いたします。

議案第3号、我孫子市生涯学習審議会委員の委嘱について、原案に賛成の委員は挙手を願います。

(賛成者挙手)

○倉部教育長 挙手全員と認めます。よって議案第3号は可決されました。

諸 報 告

○倉部教育長 日程第3、諸報告を議題とします。

事前に配付された事務報告、事務進行予定資料等に補足する説明や追加する事項はありますか。

(「なし」の声あり)

○倉部教育長 ないようですので、これより事務報告に対する質疑の時間といたします。質疑があればこれを許します。

○長谷川委員 4ページの指導課に教えていただきたいのですが、1番目の「第1回情報教育担当者会議」で、内容に「eライブラリの活用例、名簿更新」とありますけれども、この「eライブラリ」というのはネット配信情報サービスのことなのでしょうか。どんなものなのでしょうか。

○大島指導課長 これは各学校のコンピューターに入っておりまして、1つは学校間の連絡、また教育委員会からいろいろお知らせするときに使ったり、あとはいろいろな教材を入れておりまして、それを各学校で活用することができるようになっております。

○長谷川委員 小中一貫の日だったと思うのですが、中学校を見学させていただいたときに、小学生が多分この体験授業か何かをしていたような気がするのですが、生徒児童が使うものというわけではないのですか。

○大島指導課長 子供たちもこれを活用します。

○長谷川委員 生徒さんが使う利用状況というのは、どのくらい整っているのでしょうか。

○大島指導課長 利用状況全てについては、ちょっと今把握はできてはいないのですが、こちらは担当の指導主事も学校に出向いて、その使用の仕方であったり、また、積極的な活用を促しているところでございます。

○倉部教育長 そうしましたら、今後どういうふうな活用の仕方をされているか委員会のほうでまとめていただいて、その報告ができればお願いしたいと思っておりますけれども、よろしいですか。

○大島指導課長 わかりました。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 同じページの6番ですけれども、アクティブラーニングの研修と
いうことですが、ここに我孫子東高校の先生が御参加されていますけれども、
これはどういう意向があって御参加されたのかお聞かせ願いますか。

○大島指導課長 アクティブラーニングについては、我孫子第一小学校と我孫
子中学校が国の指定を受けてということで今進められているのですが、本年度
から高校では我孫子東高校もこの指定を受けて入ることになりましたので、今
回、先行している我孫子第一小学校、我孫子中学校の取り組みについてぜひ話
を聞きたいということで、この研究主任会に参加をしたということになります。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 声が出なくて済みません。同じ4ページの7番目の「第1回学校
支援地域本部学校担当者およびコーディネーター会議」のところなのですけれ
ども、内容のところに「平成28年度の学校支援地域本部事業についての説
明」云々とありますが、各学校担当者地域コーディネーターという方がいらっ
しゃるわけですけれども、今年度に向けて今までとは違う取り組みというのは
何かございますでしょうか。

この間、東葛の連絡協議会があったのですけれども、そこでも地域の支援が
話題にもなったりしたのです。これからの学校の支援というのは、地域の支援
というのは重要になってくると思うのですけれども、従来と同じというのであ
ればそれでいいのですけれども、そこで話し合われた主なポイント、28年度
にこれはということがもしあれば、力を入れているところを教えていただけれ
ばと思うのです。

○大島指導課長 この学校支援は、委員がおっしゃられたように地域との連携
が非常に大切になるわけですが、特に28年度は、これも小中一貫と結びつけ

てということなのですが、中学校区での連携を深めていこう。今まではそれぞれの学校でコーディネーターさんがいて、ボランティアの方がいてというものを、中学校区で共有できる場所は共有してということで進めていこうという方針が今年度出ております。以上です。

○豊島委員 各中学校区で連携するというのはいいことですよね。そういうふうないろいろなことを共有することで、従来にないどんなことが期待できるのでしょうか。

○大島指導課長 1つはいい人材といいますか、ボランティアとして有能な方を1つの学校だけではなく複数の学校で活用する。例えば図書ボランティアの方でも非常に知識を持った方がいらっしゃいますので、1つの学校だけではなく、いろいろな学校でその知識を活用するという意味で、有効な人材活用になるというふうに考えております。

○豊島委員 そのようにして、それぞれの地域、中学校区にどういう人材がいるかということをお互いに知ること、お互いに活発化する、じゃあうちにもということもあるかもしれないし、いいと思います。そういうところを、よりこれからも積極的に共有して発展していってほしいと思います。ありがとうございます。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 今の関係ですけれども、これは我孫子市はずっと続けているので我々は当たり前のように思っていますけれども、地域の方にはどんどん広げていかないと、1回できたからいいよではなくて、新しい地域の方を巻き込むためにはPRというか、こちらにも継続性を持った地域への発信がすごく必要だなと思っています。我々はずっと携わっている、当たり前のようにあると思っていますけれども、一部の地域の人を除いて、中学校区の皆さんが御存じかという、そうでもないということもあります。情報を発信することをいとわ

ないでどんどん出したほうがいいかなという思いはありますので、よろしくお願ひいたします。

○倉部教育長 要望でよろしいですか。よろしくお願ひいたします。

ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 3ページです。「用務員研修会」ということで、本当に何度も何度も研修されているようなのですけれども、ここの参加者に正規と臨時用務員19名とありますけれども、その割合を教えてくださいませんか。

○吉川学校教育課長 正規の方が3名、再任用を含めてです。それ以外の方が臨時ということになっております。以上でございます。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 今、北嶋委員がおっしゃった正規と臨時の3対16ですけれども、これはほかの市といいますか、ほかのところの学校でも、こういうふうな実態なののでしょうか。

○吉川学校教育課長 他市の状況は特に把握しておりません。

○豊島委員 それでは仕方がないのですけれども。同一労働同一賃金、今いろいろなことを国では言われております。もちろん財政の問題がありますから、口で言うほど簡単ではないということがわかりますけれども、正規と臨時の採用では全然違いますよね。意識が違う。そういった点で、我孫子の場合には少しずつ正規をふやしていくとか、そういうふうな方向というのはあるのですか。

○吉川学校教育課長 これまでの経緯で私の知る限りでは、臨時が増えてきている現状があるかと思ひます。財政のほうとの折衝の中で、このような動きになっているような認識をしております。

○倉部教育長 正規の職員は県費でしたか。市費ですか。

○吉川学校教育課長 市の職員の方でございます。

○倉部教育長 用務員は全て市の職員での採用ということですのでよろしいわけでは

よね。

○吉川学校教育課長 はい。

○豊島委員 ここで余りこだわってもいけないと思いますけれども、正規の職員というのは、教員であれば学校はかわっていくのですけれども、用務員の方というのは学校はかわりませんよね。

○吉川学校教育課長 用務員も、正規・臨時かかわらず、何年かごとに学校を異動していただいております。

○豊島委員 どのくらいの年数でどうかわるか、私はちゃんとつかんでいないのですけれども。

私が申し上げようとしているのは、学校によっては正規が長い、学校によっては臨時ばかりという可能性も、この数の割合でいくと出てくるわけですよね。そういうところで、それぞれ同じ児童生徒が通っているところですから、そのようなバランスも何かあった場合に考えてもらいたいなと思います。

○倉部教育長 それについて回答はできますか。

○吉川学校教育課長 なるべく異動の際には、臨時がいたところには正規の方ということで、異動は工夫して行っているところでございます。

○倉部教育長 よろしいでしょうか。ほかにいかがですか。

○北嶋委員 今の関連で。そうすると正規の方と臨時の方は、1日の勤務時間は違ってくるのですか。

○吉川学校教育課長 臨時の方は5時間45分ということになっていますので、少し短くなっております。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 引き続きですけれども、指導課の5ページの8番のところでは、

「第1回幼保小連携推進委員会」の件ですが、前回も伺って、委嘱式があってその後のことですが、最後のところに「我孫子市幼保小連携接続カリキュラム

について」ということで、前回ある程度それについて検討されているよというふうに向っているのですけれども。今現在、カリキュラムの進捗状況はどういう状態になっているのでしょうか。

○大島指導課長 現在は、お示ししたと思いますが、幼保小連携接続カリキュラムの試行版が完成しましたので、これをもとに各小学校、幼稚園、保育園では進めております。このカリキュラムというところについて今年度新たにまた作りまして、今年度中には、それぞれの園、学校のオリジナルページ、ここを作成してカリキュラムを完成させるという予定になっております。

○豊島委員 ありがとうございます。かなり進んでいて力強いなど非常に思っておりますが、実際にそれが試行ではなくて、実際の現場で活用されるというのは予定としていつぐらいからになるのですか。

○大島指導課長 先ほど言ったオリジナルページのところについては、小学校については6月中には作成し、また園については来年の3月までに作成ということになっておりますので、実際にこれが完成するのは来年の4月以降ということになります。

○豊島委員 ありがとうございます。4月以降に活用しようと思えばできるという状況ですね。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○足立委員 今、幼保小の連携の話が出ましたので、私の意見を申し上げさせていただきます。

ちょっと幼保小の連携の話から外れますけれども、個人情報にかかわることなので話をちょっとぼやかしますけれども、昨年ある小学校の行事に出席した際に近隣の中学校の生徒さんが出向いてきて合唱を披露してくれるという機会がありました。大変すばらしくて、小学生の子供たちは中学生の合唱などなかなか機会がありませんから、迫力がすごく、目が点になるというか、みんな口

をぽかんとして、すごくよく聞き入っていました。その合唱の後に、ある中学3年生の生徒が1人進み出てきて、彼が6年生のときに担任だった先生がいらっしやいまして、その先生にお礼を言っていました。その中学生が小学6年生のころ、なかなかその先生と信頼関係を結ぶことができずにいろいろと問題を抱えて、学校でもいろいろ大変でした。その生徒なりにいろいろ考えるところがあったのだと思います。中学校に行って自分なりに成長できた。これは先生のおかげですと、小学校の担任の先生にお礼を言っていました。

恐らくそれは自分から発案して言ったというよりも、多分中学校の先生のほうである程度何か、おまえはお礼を言えよというようなことを、いろいろと先生に迷惑をかけたろうみたいな話もあったのかもしれないと思うのですね。

小中一貫のその要諦というのは、統一のカリキュラムを行うことだというようなことで進めていると思うのですけれども、その下地というのですか、副次的な効果というか、実際に目に見えないけれども、一番大きいのは小学校の先生と中学校の先生が顔の見える関係になって、お互いにお互いの苦労をわかり合って尊重し合うというような関係が出てきたことではないのかと。それが1つの成果になって、その小学校の行事でのああいう場面だったのかなというふうに感じたのですね。

幼保小の連携も同じようなことが私は言えると思うのですね。この接続カリキュラムというのは、確かに今後導入して成果を上げていかなければいけないものかもしれないのですけれども、実はその前にもっと大事なものとしてあるのが、幼稚園、保育園、小学校の先生が顔の見える関係になって、お互いがお互いの苦労をわかり合う。その上で手を携えてやっていくことだと思うのですね。その信頼関係ができないまま、お互いに指を差し合って、他責的に相手に要求をするような関係だと、それは対立関係になってしまいますけれども、連携を進める中でお互いに顔が見える関係になってやっていくことで、この接続

カリキュラムというのうまく表現ができるのではないかなど。こういう公の文章の中では、例えば顔の見える関係を築くみたいな曖昧としたものというのは、なかなか文章の中には出てこないのですけれども、実はそういうものが本当が一番大切で、それをベースに接続なり、小中一貫なり、幼保小連携なりというものが形として成果をあらわしてくるのではないのかなと思いますので、そういう顔の見える関係づくりというのも恐らく日々の活動の中で着々とできていると思いますので、そういうことも忘れずにやっていただいて、今後もこれまでどおりに続けていただければなと思っています。

○倉部教育長 ありがとうございます。今のお話の中でも、なかなか言葉の中で見えない部分、みんなが共通して目指している部分けれども、見えない部分を今うまく説明していただいたのかなというふうに非常に心強く思っています。小中一貫もしかり、幼保小連携もしかり、それぞれつないで基本的には子供たちのためにどういうふうにとったらよくなるか、そのためにはそれぞれにかかわりのある大人たちである先生方が、同じ方向を向いて一緒に考えるという場をつくらうというのはまさしくそのとおりでありますので、今の御意見は激励の言葉だと思っていますので、それぞれの現場の中で自信を持って進めていただければありがたいなと思っています。

ほかにも同じような意見、あるいは今の件について御意見があればと思いますが、よろしいですか。代表して言っていただいてありがとうございます。

それ以外に何か、事務報告についてございましたら。

○豊島委員 7ページのところの教育研究所の2番です。4月18日に行われた「第1回小・中学校長期欠席児童生徒対策連絡協議会」ですけれども、今本当に長期欠席児童というのが大きな問題になっていて、全国には驚くほどの数の児童生徒がいるのですけれども、我孫子の場合、今現在どういうふうな状況になっているのか、おおよそ教えていただければありがたいのですけれども。

○水戸教育研究所長 市内小中全体を合わせまして、1.3%程度の率でございます。全小中学生に占める、いわゆる長欠児童生徒と呼ばれる子供たちの割合ということになります。

○豊島委員 これは簡単には言えないことは百も承知の上で申し上げるのですが、けれども、何とか減らせればそれにこしたことがないのですが、今までの25、26、27、28年とか、そういう数年間の中でどうでしょうか。今私らは小中一貫教育というの、ある意味では中1ギャップのそういった欠席を減らそうという動きの中で来ているのは御承知のとおりです。そういう中であって全体の1.3%云々ということはわかりましたけれども、もう少し具体的に、小中一貫を進めている上で何か参考になるようなデータとか、あるいは注意しなければいけないデータはありますか。

○水戸教育研究所長 まず小中一貫教育とのかかわりという点から申し上げますと、今はまだ布佐地区で取り組みが始まっているという状況の中で、布佐地区だけが他地区と比較して明らかな状況というのは、よくも悪くも私どもとしては見出せていないという状況です。委員がおっしゃるとおり、小中一貫という動きの中で、小学校から中学校9年間の長いスパンの中で一人一人の子供たちを、これは学ぶという視点もそうだと思いますし、長期欠席という視点もそうだと思います。さまざまな視点について教員が共有しながらきめ細かく見ていこうと、そういう流れというふうに自分は理解しております。したがって、この長欠の子供たちの問題についても、さまざまな取り組みが今もなされておりますし、今後もさまざまなこれまでの取り組みが見直されながら新しい取り組みが出てくるのだろうというふうには思うのですが、学校での学びと違まして、この長欠に関しましては地域ですとか、家庭ですとか、もちろん学校の人間関係、本当にさまざまな要因が複雑に絡み合っていて、姿としてはこういった不登校という形で出てくるのだろうと思っています。したがって

て、私どもはこれまでと同様に、一人一人の子供たちにとにかくきめ細かく時間をかけて丁寧に接していく、これしかないのだろうというふうな理解でおります。

○豊島委員 ありがとうございます。そういうことだと思います。我々は皆さんと一緒に、何とか長欠の児童生徒を少しでも減らしたいし、十分に学んでもらえるような状況にしたい。先ほど足立委員がおっしゃっていたように、15歳がゴールではありませんけれども、義務教育の15歳のゴール地点を見定めて幼稚園も小学校も中学校もやっているわけですし、そういう意味でリレーであります。第一走者、第二走者、第三走者、それぞれの走者があるわけであって、みんな一つに向かっている。その中であって、どこかのところがどうだからどうなってしまったのだろう、どうすればいいのだろうということは懸命に考えなければいけないわけです。この中の「・」のところ言えば、「平成28年度の長欠対策の取り組みについて」ということを具体的には伺いたかったのですけれども、そういっても簡単には出ないでしょうから結構ですけれども、これからもいろいろ知恵を絞って御相談していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○倉部教育長 これについて私から1つだけ。この「・」の一番最後の「中学校区ごとの情報交換」、この辺を具体的にどういうふうに行ったかを説明していただきたいのですけれども。

○水戸教育研究所長 担当の方々に中学校区ごとに集まっていただいて、特に4月ということで年度の切りかわり、卒業から入学へという切りかわりの時期でもありましたので、小学校での様子が中学校に漏れずに伝わっているかということ、あわせて兄弟の関係でお兄さん、お姉さんが中学生、弟、妹は小学生の場合、家庭にどう支援していくかという視点での協議もできるということから中学校区ごとに集まっていただいて情報交換を行いました。

○倉部教育長 ありがとうございます。この部分が多分小中一貫教育の中学校校区というところで具体的に動いている部分かなと思っていますので、同じように、そういう中区ごとの広い視野を持って子供たちをカバーしていくという取り組みを今後も進めていくということで御理解いただければと思いますけれども。

○北嶋委員 今のところですけれども、長期欠席、特に不登校の場合は背景が、それぞれ子供一人一人違いますよね。例えば小学校でそういう状況になったお子さんは、小学校のある先生とはうまくいくけれども、学年が変わって、学校に行っていないのにクラスだけは移動していくわけですよね。そういうときにそのお子さんの心を開ける、その子の心と会話ができる先生は、多分いっぱいいらっしゃらないと思うのですよ。そういう方の存在が学校とつなぐ本当に大切な糸になっていて、その子が中学に行ったときに、どうやってその糸をつないでいくかということが大きいのですよね。我々は「つないでいます」と言うけれども、子供のほうは糸が切れたような気になるかもしれないし、先生が異動してしまったということになるかもしれないし、それはわがままではなくて、最悪そこしかその子と学校との糸がない場合には、どうやってその糸をつないでいくのかというのが、多分この対策主任の方々のお役目だと思います。19人の方が研修を受けられて学校へお戻りになって、今悩んでいる子供を持っている先生方もお悩みなっていますよね。そこの情報共有とか、学校を上げて、その子をどうやったら救えるかということをやっているかなければいけない現場だと思いますけれども、学校の先生はとても忙しくて、そればかりやっていると、ほかにやるべきことがいっぱいあるという中で、そういう不登校の子たちに対して、エネルギーを注げるというのはすごく大変だと思うのですけれども、我孫子の教育研究所としては、ここだけは先生たちをお願いしていることは何かありますか。

○水戸教育研究所長 小中一貫という流れもありまして、小学校の先生方、中学校の先生方の連携は非常に強まっております、詳細は申し上げられませんが、今年度については入学式の前に、新入生の子供が小学校のときの担任の先生と中学校になってから担任の先生になる方が中学校で会って紹介をし合って、子供がスムーズに中学校生活に移り変われるように、そんな場を持ったなどというケースも複数ございました。これは小中学校の先生方のきめ細かい対応の一例だというふうに思います。

研究所といたしましては、学校がそういった丁寧な対応をしてくださっている中で、学校がなかなか家庭と連携がとれない子供たち、この子供たちが将来の引きこもりにならないように、まずは先生方や地域の大人とのつながりがどのくらいあるのかということを知りたいと、学校から情報をもらって、特につながりが余らないと思える子供については、今市内の小中学校には心の教室相談員が1人ずつ配置されております。この相談員さんは学校の相談室だけではなく、その子の家庭に訪問して指導するということもできます。そういうわけで研究所では、孤立しているのではないかと疑われる子を研究所でも見つければ学校のほうに促して相談員の派遣をすとか、県のそういったシステムを利用すとか、そういった助言を学校に積極的にしていきたいと考えております。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

今のことに関連して、今出ています長欠対策主任、学校の中で位置づけはとても大事なものになるかと思っておりますので、教育委員会としてもこの主任の力をつけるということは我孫子市の方針としてやっていかなければならないものだと思いますので、その辺も力を尽くしていきたいなというふうに思っております。

ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 7、8、9ページと研究所の報告が続いていますけれども、まず

この中で「校内委員会の定例化」という言葉が何年も毎回のように出ています。この「校内委員会」というのは、そもそも学校が主催して研究所にアドバイスをお願いしますよという会と理解していいのでしょうか。

○水戸教育研究所長 そのとおりです。

○北嶋委員 そうすると、それがなかなか開けていない現状があるというふうに読み取れるのですが、それでいいのでしょうか。

○水戸教育研究所長 市全体としては、かなり取り組まれるようになってまいりました。ただ、学校によってさまざまでございますし、「校内委員会」という名前を使わずに、それまでその学校で行われてきた子供に関する会議をそれに重ねて協議をしてくださっている、また研究所のアドバイザーを呼んでくださっている、そういうケースも少なくありません。

○北嶋委員 その校内委員会というのは、特別支援全般をテーマとした会議なのか、個々の子供たちに対する指導を共有するための会議なのか、どちらでしょう。

○水戸教育研究所長 研究所が言っている正式名称は「特別支援教育校内委員会」でございます。その学校の中の特別な支援を要する子供たちに対して、担任だけでなく学級支援員ですとか、そういった体制としてどういうアプローチをしていこうか、どういう支援をしていこうか、支援ができるか、必要か、そういったことを学校の組織として担任の先生1人が抱え込む、悩むのではなく、さまざまな目で見ながら学校としての指導の方向性を定めていく、そういった会議でございます。

○北嶋委員 よく先生たちが、クラスにいろいろなお子さんがいて、とても悩まれている。一人一人を特別な教育というのがテーマですから、一人一人に特別な教育をしなければならないのですけれども、クラスの四十何人の中で、その子たちもみんな大事。そのときに先生は、その子に対してどういう指導をし

ていったらいいのか悩まれる、そういう課題も含めて、特別支援学級だけではなくて、学校が課題とする特別支援教育に対する会議体として考えていいのでしょうか。

○水戸教育研究所長 それぞれの学校にいる子供たちに焦点を当てて、どう支えていこうか、そういった具体的な内容を話し合う会議でございます。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。事務報告についてですけれども。

○豊島委員 8ページの下の4番なのですけれども、「教職員研究論文表彰式」というのが4月21日に行われた。27年度の教職員研究論文発表表彰を我孫子市教育研究会総会の終了後に行ったということで、これは参加者570名のその場で行われたということよろしいのですか。

○水戸教育研究所長 この我孫子市教育研究会というのは、そもそも教員の自主的な研究団体でございます。ただ市内の先生方が一堂に会するというチャンスなものですから、研究会の事務局のほうにお願いをしまして、その会の終了後に表彰式を持たせていただきました。

○豊島委員 忘れてしまったのですが、去年もこの場でしたか。

○水戸教育研究所長 毎年、この場をお借りしております。

○豊島委員 すごくいい場だと思います。表彰された人もうれしいし、周りの人もいろいろ刺激を受けたらろうし、いい場だと思います。ありがとうございます。

○倉部教育長 この我孫子市教育研究会総会の場でというのは、いわゆる「我孫子市教育研究会」と呼ばれるのは、全教職員の方々が自主的に集まる研究組織でして、みずからが分担金を出して先生たちを呼んだり、それぞれの教科ごとの部会をつくって、まさしく先生たちの真面目さを体現したような団体、いわゆる勉強の場というふうに私は捉えています。その中でなおかつ、忙しい公

務の中、自分たちの実際にやっている研究成果を論文として出していただいている方をこの場で表彰するというのは、とても意義のあることだと思いますし、私も差し上げる立場として、とても誇らしく思っています。

以前も豊島委員から、もっとそれについて力を注いでというふうに激励の言葉もいただきましたので、委員会としても、そういうような自主的な先生方のかかわりについては、顕彰するような場をしっかりとつくってあげたいなというふうに思っています。よろしくお願いします。

ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 9ページの5番、「特別支援学級における評価及び通知票」云々のところですけれども、ここで「話題にあがり」と書いてありますけれども、今まで市として共通の方針とか、そういうのはなかったのでしょうか。

○水戸教育研究所長 本来、各学校が定めて出しているものでございまして、こうすべしというふうな方針は研究所としては出してきませんでした。しかしながら、先生方のほうから、ほかの学校ではどんなふうに行っているだろうかという御意見が出まして、それであれば研究所のほうで各市内の状況を集約して各学校に情報として返す、各学校が新たな取り組みをするかどうか各学校の判断材料になったらいいなということで、この御意見を受けとめました。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

○足立委員 図書館のところで19ページの3に「並木小学校絵本の読み聞かせ講習会」に講師を派遣したということがあるのですけれども、どんな内容のものなのか、概略を教えてくださいたいのですけれども。

○今井図書館長 講師派遣事業の1つということになりまして、今回は並木小学校のほうから依頼を受けまして、その中で読み聞かせの講習や、おはなし会などを実施しているというような簡単な説明になりますけれども、そのようなこととなっております。

○足立委員 参加者というのは保護者なのですか、それとも学校の先生ですか。

○今井図書館長 対象は保護者になります。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 11ページに戻らせてください。生涯学習課、公民館担当の1番の長寿大学の1年生、51人でスタートというところはよかったなと思っております。これは数名しか4年間で減っていかないということで、なかなかいい内容をとっているなと思っております。今伺いたいのは、ことしの場合は何人ぐらいの受講希望者があつての51人なのかということがちょっと気になりました。

○丸山公民館長 お答えいたします。こちらにつきましては、この51人が応募者全員で、落選をした人とか、抽せんて漏れてしまったという方はいらっしゃいません。定員の中で51名全て受けていただいております。例年のことを言いますと、26年度実績ですと54人という形で、ぎりぎりの枠で最初はスタートしていることもありますが、ことしは51人になります。

○豊島委員 51人の方はよかったですね。というか危ないなと思うのですよ。毎年そのぐらいのうまい数で大体おさまっているというのが、ここ数年つながっているのですか。

○丸山公民館長 これは過去にはかなりの人数だったということも聞いております。ただ近年は大体ぎりぎりのラインで、私たちも抽せんになるか、ならないか冷や冷やししながら、4月1日、最後の締め切りまでやっています。

○豊島委員 ありがとうございます。抽せんになるのは55人ですか。

○丸山公民館長 54人です。

○倉部教育長 各学年の定数を54人にしているということですよ。超えると抽せんということですね。

○丸山公民館長 この定員は54人という形でやっておりますので、この枠で

今進めております。

○倉部教育長 初めて定員割れだと思います。それまでは必ず抽せんか、ぎりぎりか、ぴったり。非常に倍率の高い学校ですので。よろしいでしょうか。

○北嶋委員 関連で。ちなみに平均年齢、男女比を教えてくださいませんか。

○丸山公民館長 申しわけありません。男女比は手元ですぐ出ないのですが、平均年齢につきましては、今回の全体では71歳でございます。

○北嶋委員 ありがとうございます。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。事務報告はよろしいですか。

○北嶋委員 感想ですけれども、この間、鳥の博物館の「フクロウさんちの子育て日記」を見せていただきましたけれども、とてもおもしろかったです。我孫子でああいうふうに巣をつくって、その中にフクロウが入っていることをずっと記録、生放送ができてるのはすばらしいので、どんどん皆さんが行かれたらいいかと思っておりますので、宣伝を含めて感想でした。

○斉藤鳥の博物館長 見ていただいてどうもありがとうございました。今後も本当に身近な自然、鳥を中心にした自然をどんどん紹介していきたいと思っておりますので、ぜひいらしていただければ、また紹介していただければと思います。

○倉部教育長 新しいカメラはもう切りかえたのでしょうか。

○斉藤鳥の博物館長 5月の末ごろ巣立ちますので、それが終わってから新しいアーカイブシステムに入れかえます。またずっと来年以降もできるようにしたいと思います。

○倉部教育長 という準備を今進めているというところですので、よろしくお願ひします。

ほかに事務報告についていかがでしょうか。

○豊島委員 今の鳥の博物館の16ページから17ページですけれども、これはほかのところもそうですが、本当に地道に、そんなに何カ月もたっているわ

けではないのですけれども、その間にこれだけの行事をやりながら進めているということは、本当にすばらしいなといつも見えています。そのほかのところもそうなのですから、図書館も含めて地道な行事を積み重ねていくというのは我孫子の文化を上げていくことですので、我々も精いっぱい応援して少しでも参加したいというふうに思っています。

○倉部教育長 御意見ということで、ありがとうございました。事務報告についてはよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 それでは、事務報告については以上でないものと認めます。事務報告に対する質疑を打ち切ります。

次に、事務進行予定について質疑があればこれを許します。いかがでしょうか。

○長谷川委員 ページで言うと4ページの指導課の3番「日本語指導者担当者会議」のA I R Aのことでお伺いしたいのですけれども、この日本語指導はどのくらいの頻度で行かれているとか、そういうことを教えていただけたらと思います。

○大島指導課長 現在3名の対象児童がいるのですが、この方たちは週に2回、1回が1時間ということですので、児童1人当たり週2時間の派遣だというふうに聞いております。

○倉部教育長 よろしいですか。

○長谷川委員 ありがとうございます。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 2ページの学校教育課の4番の「定例栄養士会議」がこれから行われるわけですが、ついこの間、北陸のほうで、教員も含めてかなりの人数が食中毒になったのですけれども、それぞれ栄養職員19名が各学校にい

るということなのでしょうけれども、我孫子の場合の給食というのは全体的には給食センターですか。自校ですか。

○倉部教育長 学校の実態について御説明いただけますか。

○吉川学校教育課長 市内の各学校は自校で調理しておりますので、自校方式ということになっております。

○豊島委員 そうであれば、あのような形での蔓延はないということでしょうか。それだけに各学校で注意をしていってもらいたいと思いますけれども。ありがとうございました。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 また研究所ですけれども、9ページの4番です。研修会のところに「参加対象者」は「希望者」ということがありますが、この希望者というのは教員の方々で出てみたいと思われる方ということですね。

○水戸教育研究所長 そのとおりでございます。

○北嶋委員 発達障害のある子供たちは、特別支援学級にいる子もいれば、通常学級にいる子もいれば、いろいろです。時間的に放課後であるなら、できるだけ多くの先生に行ってほしいなと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○倉部教育長 そのように対応をとっていただいていると思いますけれども、今の委員の意向も踏まえまして、より多くの人に参加できるようによろしく願いします。ほかにいかがでしょうか。——よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 それでは、事務進行予定についてはないものと認めます。質疑を打ち切ります。

次に教育事業全般について、御意見なり、質疑があればいかがでしょうか。

○北嶋委員 きょうは研究所ばかりで済みませんが、お伺いします。ここのと

ころ半年ぐらい、国のほうも、県のほうもいろいろな情報として、通級指導を受けている生徒のことがいろいろと統計で出ていますよね。この間、千葉日報にも出ていましたけれども、我孫子の中で通常学級に在籍して通級指導を受けている子供の数はわかりますか。

○水戸教育研究所長 例えば言語学級については、市内の小学校から言語学級のある市内の小学校への通級ということになります。申しわけありません、ちょっと手元に資料がないのですが、通級と申しまして、そういう通級もあれば、特別支援学校に通級して指導を受けるということもありまして、市内からは千葉聾学校のサテライト校が柏市内の小学校にありまして、こちらに4人通っております。それから近隣ですと松戸特別支援学校、こちらは肢体不自由についての指導なのですが、こちらの指導にも、4人が通級をしております。

地域の特別支援学校は、そういった地域でのつながり、いわゆる通級の形を今後さらに広げていきたいという流れですので、こちらとしても支援をいただく貴重な機会と捉えて、さらに連携を深めていきたいと考えているところです。

○北嶋委員 統計というのは、とりようによって変わるし、そのときの社会状況によって数字は動くので、ふえたことはイコール子供がふえたからとは読めないと思いますけれども。例えば通常学級に入っているお子さんが特別支援学級に学校内で通うというようなときには、判断というのは学校の校長先生と保護者と担任の方、特別支援学級の担当でなさるのでしょうか。

○水戸教育研究所長 そのあたりは各校の対応は非常に柔軟でございまして、例えば特別支援学級に在籍しているのだけれども、算数はいわゆる親学級、通常学級でそちらの友達と一緒に受ける。先生方は「交流授業」と呼んでいるものも非常に頻繁に実施をされています。その辺の判断をするのは、最後は保護者の方と校長先生ということになると思いますが、もちろんそこには担任の先生、その学校の特別支援学校の先生や、先ほど資料で触れていただきました特

別支援教育コーディネーターの先生、研究所の教育相談員が呼ばれるということもあります。非常に顔ぶれそのものも柔軟な対応になってきているということです。

○倉部教育長 今の通級指導について、ほかに御意見なり、御質問があれば。——よろしいですか。

それ以外に教育事業全般について、もし御質疑等があれば。

○豊島委員 この間、土曜日の日ですけれども、3校の小学校の運動会を拝見させていただきました。例によって組体操はなくなっているわけですけれども、それにかわるものとして、舞だとか、あるいは全体の舞踊等というのかな、実際には湖北台西小学校の舞だけしかその部分のところは見られませんでしたけれども、これはかなり統制のとれたきっちりとしたものになっておりました。そういう意味では、模索して模索して短期間でああいうものをつくり上げていったのだと思いますけれども、今朝もNHKのテレビで千葉の2割が組体操をやっていない。それははっきりしていて、あとは市町村に任せているのだけれども、その中でも半分ぐらいはやらないだろうというようなことになっておりました。細かいデータが違っているかもしれません。我孫子はその中ではかなり先頭を切って組体操にかわるものを作って来たわけで大変だったと思いますけれども、私はそれを見ていてよかったのではないかと思っているのですが、皆さんはいろいろなところをごらんになっていると思うのですけれども、ことしからのことですので、ちょっと感想を聞かせていただければありがたいなと思っているのですけれども。

○倉部教育長 教育委員に対してと、学校も含めてということですか。

○豊島委員 はい。

○倉部教育長 では、まず学校のほうの今までの取り組みと、その辺のご苦労があったかと思しますので、指導課長、よろしいでしょうか。

○大島指導課長　ことしの3月に組体操については中止という決定をしまして、その後、特に運動会が早い小学校につきましては、4月の頭から、各学校はそのかわりに何をするかというところで、かなり苦労されたのではないかなと思います。結果的には、先週は9校の小学校が運動会を実施したのですが、ほとんどの学校で表現活動。委員もごらんになったと思うのですけれども、以前の組体操に近い基本的な部分の演技であったり、あるいはそこにちょっとダンスを取り入れたり、また旗を持って移動したりと、そのようにかなり工夫をしてやっているなど感じました。また、中学校については9月実施ということで、今学校では同じように、どういったもので子供たちに感動を与えるかというところで今検討をしているところだというふうに思います。

○倉部教育長　ありがとうございます。では委員の皆様の感想を。

長谷川委員からよろしいですか。

○長谷川委員　私のほうは、保護者の方の御意見というか、お話をいただいたのですけれども、組体操でなくなってしまって残念だなというふうにおっしゃった保護者の方もいないわけではなかったのですが、何人かのお母さんからは、組体操をやる不安というものがなくなってよかったというふうに御意見はいただいています。

○倉部教育長　ありがとうございます。北嶋委員、いかがでしょうか。

○北嶋委員　私も、ここの部分は午後で1校しか見られなかったのですが、その学校は表現ということで、ちょっとした倒立風なこととか、ブリッジとか、個人個人のできる技能の発表があり、その後はボディパーカッションという今注目をされているものが入っていたり、とても工夫されていて、一人一人が自分のやるべきことをやっているように私は見えたので、どちらがいいと比べるものではないのですが、今回の各学校の取り組みはとてもよかったし、子供たちもはつらつとやっているように見えたので、これでよかったのではないかな

と。組体操に関してはこれからゆっくりと考えればいいことで、ついこの間決めたことで、いきなり学校はこれにしなければいけなかったのですが、とても工夫をされていて、校長も見てくださいよということで、とても自信を持っていらっしやっし、短い2週間余りで、よくあそこまでみんな頑張ったなということでは評価したいなと思っています。

○倉部教育長 足立委員、いかがでしょうか。

○足立委員 私は3校の運動会を見せていただいて、そのうち1校で集団の表現活動を拝見することができました。私個人の感想としては、旗を使った集団の演技は物すごく迫力がありましたし、先生方は非常に工夫された御指導をされていて、子供たちも一生懸命頑張っていてとても感動的でした。

実は意識的に保護者の声を聞いてみたのですけれども、その学校で私が聞いた限りでは、組体操がなくなって残念だという声はありませんでした。ことし新たな試みでやったのだと思うのですけれども、フラッグを使った演技は非常に良かったという声がたくさんあったので、良かったなという感想を持ちました。

○倉部教育長 私も3校を見て、そのうちの具体的には1校、近いところでもう1校あったのですけれども、組体操の要素を入れつつ、いわゆる扇だとか、そういうようなもので安全な形で見せる要素を残しながら、よさこいとか、拍子をつけて実に子供たちが楽しそうにやっていた。とても楽しそうで、それを見ている親御さんたちも、安心してという言い方はおかしいかもしれないですけども、楽しんでいらっしやっし。何よりもそれに携わった先生たちがすごく喜んでたという表情を見て、とても良かったなというのが素直な感想です。しばらく続けてみて、それが定着すれば1つの評価になるとは思いますが、今のタイミングで無理して我孫子市が組体操を続けなければという選択でなくて良かったのかなと思います。それはある程度続けた上で、もう一度皆さ

んが考えて、もっと発展系のあるそういう表現方法があると思いますし、9月の中学校でそれがどういうふう実際にされるか、それが逆に言うと楽しみだというふうにつないでくれた小学校の表現だったかなと思っていますので、我孫子市としては今回はとてもいい流れになったのではないかというのが素直な感想です。

大体、そういうような感想でよろしいでしょうか。組体操等についてはほかによろしいですね。

それ以外について何か御意見、あるいは御質疑はありますでしょうか。

○豊島委員 もう1つだけ、いいですか。きょういただいたデータの1つに、教員の勤務時間の適正管理にかかわる我孫子市内の中学校の実態についてというのがあって、昨年度は小学校の先生が、超過勤務が平均2時間42分、2時間半を超えていて、中学校は3時間2分、3時間を超えている。25年、26年も中学校は3時間を超えていまして、若干短くなったりはしてはいるのですが、小学校は2時間半を超えてきているということがありますよね。そんなことは今さら言っても仕方がないのですけれども、これは土曜日、日曜日の部活動の指導の時間を抜いたものです。ですから、これにさらに土曜日、日曜日を加えたら、とんでもない時間になるというふうに思うのですよね。先生方は喜んで活動して頑張ってくださいているのも知っています。それでも時間がかかりオーバーなのではないかなと。民間企業だったら、これはまた違う問題が必然的に起こるよという状況ですよね。我々教育委員会としては、これからも一人一人先生方に余り甘え過ぎることなく、授業なり、子供たちの指導なり、そういうところに時間をかけられるようにもう少し勤務時間のことを、いろいろ工夫はされているのは知っています。ノー残業デーとか何とかやっていることも知っています。でも1年間にわずかですよね。その辺のことを本気になって考えていかなければいけないのだろうなと改めて思った次第です。

金がないのだから、ない袖は振れないということもあるかもしれないけれども、これは地域の活動とか、支援とかを含めながら頑張っていきたいなど思っているのです。昨日帰ったら回覧板が来ていまして、私は湖北中学校の学区なのですけれども、湖北中学校の通信も回覧されておりました。その中に、湖北中学校のバレエ部を見ていた元教員の男の人がいるのです。その人が亡くなったという記事が入っていました。これはたまたま去年、指導をなさっているのを見ていたのですね。あの人は元教員だからいいのだろうとは思いますが、いろいろな部活動だって工夫すればもう少しいろいろなことができると思うのですよね。そうしながら先生たちの時間をもう少し短く、適正な時間にしていく努力は怠るべきではないなど。私も自分に言い聞かせていたものから、この時間を見て改めて思っているので、何とかお互いに考えていきませかという、やむにやまれぬ思いなのですけれども。

○倉部教育長 豊島委員の思いという形で今おっしゃっていただいたと思います。これについて答えを出せる人は個人としてはなかなか難しいと思いますので、この課題については教育委員会が全体で同じ思いを持って、学校現場の中でいかに子供に対して向き合える時間をつくっていくか、そのためにはどうしたらいいかというものを一緒になって考えていくという姿勢が必要なのかなと思っています。

今、国で言われているチーム学校についても、まさしくそのとおりだと思うのですが、国が言うチーム学校は、正直に言って、お題目があって、それに地方が何とか頑張れよというふうに出されているだけです。本当に地方でどういうふうにしたらいいかというものを考えていくしかない。そのためには学校支援地域本部なり、地域の力をどれだけ学校の中に取り入れられて、先生たちの選択肢をふやしてあげられるか、それに尽きると私は思っているのです。ですから、そういう環境づくりをぜひとも5人の教育委員、私たちが

一緒になって学校現場と協力し合って、そういうものを進めていきたいと思っているのですが、そういう意見の発露でよろしいでしょうか。それが現場に受け入れられるように一緒になって頑張っていきたいと思しますので、御協力をお願いしたいと思します。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

○北嶋委員 この資料が入っていましたけれども、生涯学習とは関係ないのですか。まちづくり協議会がやっているもので、これは市は関係ないのですか。

○倉部教育長 これは資料としての紹介だけだと思います。多分こちらで答えられる方は誰もいないと思しますので。

○北嶋委員 生涯学習は関係していないということでもいいのですね。わかりました。ちょっと興味があったものですから。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか

○丸山公民館長 先ほど答えられなかった数字がわかったものですから、お答えします。

51人の新入生の割合なのですが、男性が47%、女性が53%で、女性が多いです。ただ全体の194人で見ますと、今度は微妙なのですが、男性が51%、女性が49%ということです。資料がすぐに出ませんで、申しわけございませんでした。

○北嶋委員 ありがとうございます。

○倉部教育長 ほぼ同数に近い、全体的にとってもいいバランスかなというふうに思します。ありがとうございました。

それではほかにないようですので、質疑を打ち切らせていただきます。

○倉部教育長 以上で平成28年第5回定例教育委員会を終了いたします。どうも長い間、お疲れさまでした。

午後 3 時 1 5 分閉会